

NPO法人ワークセンターいちい『どんぐり工房』における 農福連携等プラス推進モデル事業の取組みについて

一般社団法人 岐阜県農畜産公社
ぎふ農福連携推進センター

1) 地域の概要

NPO法人ワークセンターいちい「どんぐり工房」が位置する東濃西部地域は、瑞浪市に加え、多治見市、土岐市の3市からなり、JR中央本線、中央自動車道、国道19号および東海環状自動車道が整備された交通の要所であり、工業団地の整備、大型商業施設の進出等により、交流人口は増加している。また、3市の人口はやや減少傾向にあるものの19万9千人と本県の人口の約10%を占め、名古屋市とは30km～50km圏に位置していることから近郊都市として経済的結びつきが強く、多様な価値観をもつ生活者や実需者が多く在住している。



当地域の農業は、水田農業および畜産が中心である。水田農業については、基幹的な集落営農組織が活躍する一方、一戸あたりの耕地面積は少なく自給的農家の割合が高い。畜産では、養鶏や養豚、酪農などで近代的な施設をもった企業的経営が営まれ、中でも養鶏は県下有数の飼養羽数となる大規模経営が営まれている。近年はトマトやいちごなどの施設園芸を行う経営体が増加しており、平成24年以降に開設された瑞浪、多治見2つの農産物直売所が地産地消の拠点となり、販売先として活用されている。また、地元スーパーや量販店等の多様な販路も開拓されるなど、地産地消の取組が進みつつある。

2) NPO法人ワークセンターいちい『どんぐり工房』の取組み



平成23年4月市所有の建物にて就労継続支援B型事業所『どんぐり工房』を開設し、翌年からは生活介護事業も開始した。また平成30年にグループホームを開設、そして瑞浪市内駅前には第2どんぐり工房事業所を開設し、どんなに障がいも重くても日中活動を有意義に過ごすことができる地域拠点としてサービス提供を行ってきた。

就労継続支援B型事業所『どんぐり工房』では、パン・クッキーの製造・販売を中心に、瑞浪市の駅周辺や都市公園等の清掃作業請負にも取り組んでおり、令和7年度には、さらなる工賃増額を目指して、地元農産物直売所の新たな特産品とするべく「ねぎ栽培」を開始し、同時に瑞浪市、地元高校等と連携し、ねぎを使った新商品の開発と販売に向けたプロモーションを行った。

2) 農福連携等プラス推進モデル事業への取組み

(1) ねぎ生産、販売への展開

農福連携等プラス推進モデル事業の採択後、9月から農業生産コーディネーターの支援を受け、当地の気候や地元直売所において嗜好されるねぎの品種選定をし、播種、育苗を開始した。

コーディネーター指導のもと、当該事業所近くに準備した栽培ほ場（3 a）の土質や水はけ等を確認し、深耕や定植後の敷き藁などを行い、土中に空気が入り易い土質改善や排水・保水対策等を行い、ねぎの試験的栽培を進めていった。11月以降は導入したねぎ専用管理機を用い土寄せ等を行い、手作業による土寄せに比べ1 / 3の時間で実施でき、ねぎ栽培において最大労力が掛かる作業の省力化が実証できた。



◇利用者によるねぎの管理作業

収穫は12月から可能となり、1月以降には順次収穫が進み、2月にかけて収穫の盛期を迎えた。

全体収穫量が少なく、加工品（ネギ入りメンチカツ、ネギコロッケ等）試作（販売）用、及び当事業所利用者・保護者向け販売で全量を使い切り、出荷予定である地元直売所「きなあつ瑞浪」への出荷には至らなかったが、8年度以降にはきなあつ瑞浪前のほ場などで栽培面積を拡大するとともに、きなあつ瑞浪出荷者組合と連携し、春季以降のねぎ出荷を進めていく。

(2) ねぎ商品の開発、販売への展開

事業所で進めるねぎ生産と並行して、ねぎを活用した新商品（加工商品）の試作、改良を行い、市や市内高等学校等と連携し「地域に認知される新商品づくり」を行った。

9月から、ねぎと、瑞浪市の銘柄豚「瑞浪ポーノポーク」を使った『ネギコロッケ』、『ネギメンチカツ』の試作とマーケティングを進めた。

10月中に味付け、加工法等の検討や事業所内での試食を進め、11月には市内公立高校の教職員、学生に対する試食とアンケートを実施。12月には瑞浪市シティプロモーション課所管の市内3高校の学生で組織する「未来創ろまい課」所属の50名の学生を募集しプロモーション会議を開催。ハンバーガーとして販売した時の学生目線の価値観、価格等について求評を実施し、販売予定価格を100～120円で設定した。

1月には瑞浪市役所のほか「きなあつ瑞浪」での試食会を、2月には子ども食堂での試食会を開催し、地元地域での認知と消費拡大に努めた。



◇ネギコロッケバーガー



◇高校生プロモーション会議による求評会

(3) 今後に向けた地域への取組み

- ・市経済部農林課・農業委員会と連携し、市内遊休農地や後継者不在農地などの流動化を受け、ねぎを含め里芋、さつまいも等農産物生産の拡大による収益（工賃）向上を図る。
- ・8年度は、瑞浪市明世地区において、市と市内高校と連携し遊休農地を活用して「ねぎ栽培の実証活動」を展開し、ねぎの生産振興の啓発活動を進める。
- ・また市内の2高校購買部においてネギコロッケバーガー、ネギメンチカツバーガーの本格販売を開始し、地域内の若者に対する地元ねぎの認知と消費拡大を進める。
- ・市商工課と連携し、現在は遊休化している事業所所有のキッチンカーを用い、瑞浪駅前におけるコロッケ、バーガーの販売を展開するとともに、瑞浪近隣地区にある恵那農業高校と、瑞浪ソウルフードとのコラボ商品開発も進めていく計画である。



◇収穫され加工されるねぎ



◇出来上がり、試食を待つ「ネギハンバーガー」